

ミカンサビダニの防除対策

本種の防除は、ミカンハダニや黒点病との同時防除で対応してきており、殺ダニ剤や黒点病防除剤のジチオカーバメート剤（ジマンダイセン、エムダイファー水和剤など）を定期的に散布した園では、被害果をみることはほとんどなかった。しかし、数年前から、こうした園でも被害果が散見されるようになり、発生面積が拡大する傾向にある。

多発の原因としては、まず使用薬剤の変遷（特にサビダニ効果の低い殺ダニ剤の使用）や硫黄剤（石灰イオウ合剤、水和硫黄）など本種に効果のある薬剤の散布回数の減少があげられる。また、図-1に1973年と1996年に行ったジチオカーバメート剤の防除効果を示した。1973年に行った試験では、散布後ほとんど発生がみられず高い防除効果が認められているが、1996年の試験では、散布後数日間で急激な密度の回復がみられている。これは、

本剤が長年使用されたことで、薬剤抵抗性が発達して効果が減退したためと考えられる。県下での薬剤抵抗性の発達程度や分布は調査されていないが、かなり広範な地域で発達しているとみられ、このジチオカーバメート剤の効果減退も最近の多発の大きな原因と考えられる。このほか、本種は一般に乾燥条件で多発する傾向がみられ、気象的には近年の高温乾燥が発生を助長しているとみられる。

図2に薬剤防除試験結果の一部を示したが、本種に対してはサンマイト水和剤、ダニトロンフロアブル、ダニカット乳剤、ケルセン乳剤、モレスタン水和剤や硫黄剤などの効果が高い。効果の持続期間（残効性）は薬剤により異なるが、30～40日程度とみられ、とくに前年多発した園では6月中旬以降、効果のある薬剤を2～3回程度散布する必要がある。

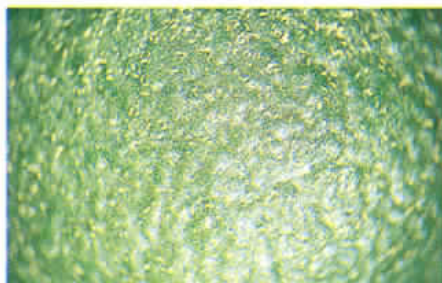
（虫害班 主任研究員 荻原洋晶）



① サビダニ被害葉



② サビダニ被害果



③ ミカンサビダニ

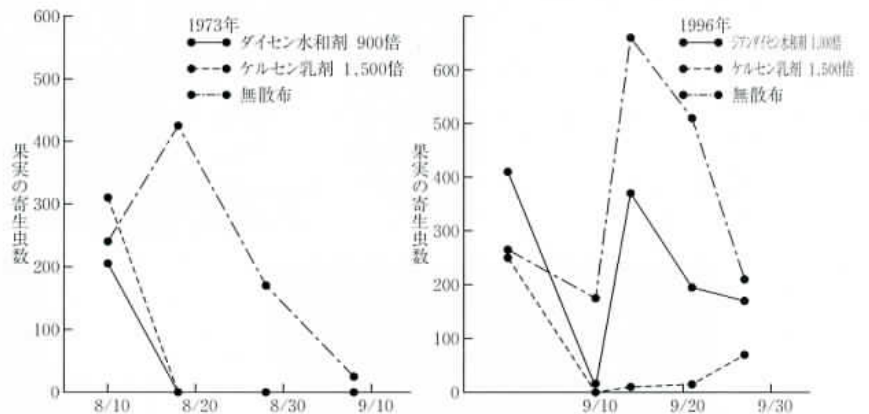


図-1 ミカンサビダニに対するジチオカーバメート剤及びケルセン乳剤の防除効果

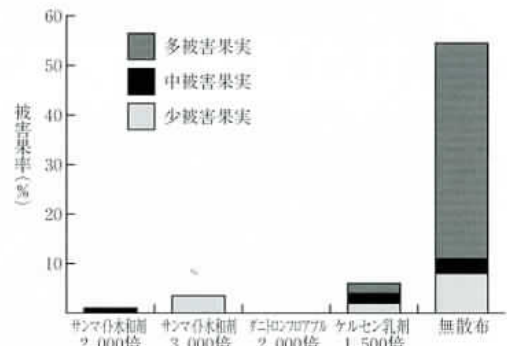


図-2 ミカンサビダニに対する各種殺ダニ剤の防除効果